

ハーモニー

Harmony

第93号 2024年2月22日発行

一般社団法人

日本養護教諭教育学会

General Incorporated Associations

Japanese Association of Yogo Teacher Education

(一社) 日本養護教諭教育学会

事務局：〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5

アカデミーセンター

TEL 03-6824-9398

FAX 03-5227-8631

振替口座：00880-8-86414

jayte-post@as.bunken.co.jp

目次

地震に対する本学会の支援について考える…… 1	
【能登半島地震特別企画】	
能登半島地震を体験して…………… 2	
災害を支える養護教諭のネットワーク…………… 2	
今を大切に…………… 3	
第31回学術集会（ハイブリット開催）のご報告とお礼… 3	
第31回学術集会を振り返って…………… 4	
第31回学術集会に参加して…………… 5	
2024年度「研究助成金研究」の選定報告…………… 6	

第31回学術集会「投稿奨励研究」の選定報告…… 6	
第32回学術集会（茨城県日立市）へのお誘い…… 6	
代議員及び役員候補者の選出に関する選挙の実施について… 7	
「養護学」の構築にむけたプロジェクト」メンバーについて（報告）… 7	
第3回（2023年度）定時総会（代議員総会）の議事について（報告）… 7	
理事会の議事について（報告）…………… 7	
事務局からのお知らせ…………… 8	
編集後記…………… 8	

地震に対する本学会の支援について考える

理事長 後藤ひとみ

令和6年能登半島地震で犠牲になられた方々に心より哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に衷心よりお見舞いを申し上げます。

発生から50日余りが経過していますが、内閣府公表の被害状況等（2月16日時点）によると、521か所（石川県519か所、新潟県2か所）の避難所で計12,931の方が過ごしており、石川県では、断水29,520戸、停電1,100戸という状況が続いています。2月に入り、当初は休校や短縮授業を余儀なくされていた約100校のすべてが再開したと報道されましたが、40校以上は避難所であり、保護者の元を離れて集団避難を続けている子どもたちもいて、被災前の学校生活に戻る日がいつになるのかは予想が付きません。このような厳しい状況の中でも、学校再開を喜び、満面の笑顔で「学校に行きたかった。友達に会いたかった。」と話す子どもたちの映像に救われる思いがしました。そして、学校という存在の大きさを改めて感じています。

石川県の「子どもの学びポータルサイト」では、当面は物的支援のみとして、支援の要請と支援の提案をつないでいますが、学校教育にかかわる人的支援については、教員の派遣、カウンセラーの派遣、学習支援のための学生の派遣などが徐々に進行しており、様々な自助、共助、公助の姿に胸が熱くなります。

そこで、本学会ができる支援について考えるため、これまでの地震関連の取り組みを振り返ってみました。

機関紙ハーモニーでの掲載は、第8号（1995年6月）の阪神・淡路大震災に関する「激震・被災における心のケアと養護教諭の役割」が始まりです。その後、第59号（2012年9月）から第66号（2014年12月）で「東日本大震災を経験して一被災地の今」を8回、第67号（2015年6月）から第76号（2018年6月）で「災害について考える」を7回掲載しました。特に、「災害について考える」の第3回から第5回は、熊本地震の発生から1か月、4か月、7か月過ぎた思いが綴られています。

学会誌第15巻第1号（2011年9月）では特集「東日本大震災を考える子どもの健康と保健室の役割」が生まれ、学会誌第15巻第2号（2012年3月）には第19回学術集会（2011年10月）で行ったプレコンgres「災害時に保健室・養護教諭はどのような役割を果たせるか」の参加者163人（22グループを編成）によるワークの内容がまとめられています。また、学会誌第24巻第2号（2021年3月）には、第28回学術集会（2020年10月）の開催地企画「熊本地震とその後」の内容が掲載されています。

これまでに地震のご体験を語り、知見をご教示くださった方は会員・会員外を合わせて200人を超えています。この経験知をHPで公表する一方、それらを共有する場を設けていきたいと思ひます。

末筆ですが、一日も早い復旧・復興を願うとともに、皆様の安全とご健康を心よりお祈りいたします。

【能登半島地震特別企画】

被災地の会員の方に近況をお知らせいただきました。

能登半島地震を体験して

竹俣由美子（金沢市立小坂小学校）

1月1日16時、私は実家に新年のあいさつに出かけている時に、突然これまで経験したことのない大きな揺れに襲われました。携帯からは緊急地震速報が鳴り響き、テレビの画面が一瞬に変わり、能登の地震が知らされました。「逃げてください」と絶叫に近い声とともに、予測5m、到着時刻17時の津波警報が伝えられました。実家は海拔1.5m、指定避難場所はさらに海側で海拔も低い所でしたので、3.11の津波の映像が脳裏に浮かびました。夫の「まだ時間はある。山に逃げるぞ。」の掛け声とともに、ほとんど歩けない母を何とか車に乗せて山に向かいましたが、山の手前で信号が止まっていて、警察官が迂回誘導をしていました。土砂崩れが起こり、山への道が使えなくなっていたからです。

近くに勤務校があったので、「小坂小に行こう。海拔12mある。」と運転する夫に伝え、車をターンして、勤務校に身を寄せました。既に200人以上が避難しており、「先生、助けて。うちのおばあちゃんも足が不自由で階段を上がれないの。」「先生、トイレに行きたいけど怖いの。」と声をかけられました。みんな不安で怖かったのです。数時間経って、金沢には津波が来ないだろうことを知り帰宅しました。避難した時の寒さ、不安、恐怖感は、今も深く胸に残っています。この原稿を書いている1月末も、何人の方が水道も使えない避難所に身を寄せている状況です。

1月4日、安否確認のために、ある児童の家に電話をしたところ、能登へ帰省中に被災し、亀裂の入った道をびくびくしながら金沢に戻ったとのことで、お母さんがミシミシと家がつぶれる音、ガラガラと瓦が落ちてくる音、海からのゴーっという波の音を聞きながら逃げた恐怖を話してくれました。児童は恐怖がぬげず、机の下から出られないとのことでしたので、家庭訪問し、「学校に来てと言いに来たんじゃないよ。ただただ顔を見たかったよ。」と伝え、「あなたがだいじ」というカードを渡しました。そのくらいできませんでした。

1月12日に、オンラインでの緊急災害支援の研修を受け、心の教育を行うことを学びました。強い恐怖やイライラは、大きな災害が起こった時の正常な心の働きであると伝えること、リラックスのための呼吸法と漸進性筋弛緩法、いつも体が揺れているような感覚を止めるためのグランディング法を学びました。

身体計測の時間を使っての保健指導で、すべてのクラスで取り組み、声のトーンを落とし、ゆっくりと一人一人に語りかけるように行いました。筋弛緩法の後、子どもたちから「ふうー」という大きなため息とともに、「昨日も緊急地

震速報あったね。あの時家で一人だったんだ。すごく怖かったよ。」そんなつぶやきが漏れ、「そうそう」というなずきがたくさんありました。「それは怖かったね。怖さに耐えたね。よくやっているね。」そう伝えました。

私の住む地域は日常生活を送っていますが、能登の状況をニュースで見ると胸がとても痛みます。これまで、様々な災害のたびに「大変だろうなあ」と思っていました、どこか遠く感じていたと思いました。

日本の様々な地域のDMAT、赤十字の車を目にし、たくさんの方が支援に来てくださっていることを実感しています。ありがたいと思うと同時に、能登に駆けつけ応援できない自分の無力さも感じています。勤務校にも心を痛めている子どもや教職員がいます。今は、そこに力を尽くそうと気持ちを奮い立たせています。

災害時を支える養護教諭のネットワーク

丸山 美貴（新潟県立新井高等学校）

この度の能登半島地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。新潟県も過去二十年間に中越地震や中越沖地震による甚大な被害がありました。当時は、目の前の子どもたちへの対応に「これでいいのか」と自問したり、他校での対応を聞いたりしながら無我夢中で行動していたと記憶しています。被災地域の養護教諭からも「手探りの状況で対応して本当に大変だった」の声であふれていました。

今回の地震では、新潟県も多くの地域が被災しました。その中で、他県の研究会や大学から提供いただいた被災時の対応資料が、新潟県養護教員研究協議会を通して、すぐにメールで学校へ届きました。また、全国養護教諭連絡協議会の役員からも様々な資料をいただき、県の養護教員会に情報提供を行いました。皆様の支援が本当に心強く、感謝してもきれません。

当校においても、資料を参考に、職員会議において生徒への心のケアに関するプリントを配付し、教職員と対応についての情報共有を行いました。実際、保健室では地震が直接の来室理由ではなくても、体調不良の間診から「地震が起きてから、怖くて家族が起きている時間帯に入浴している」と話す生徒もいました。もし、今大きな地震が発生したら…自分は何ができるか、何をするかについて、災害時の「経験」から得た対応資料をもとに、改めて確認しています。

今を大切に

安川絵里香（上越教育大学大学院）

この度の能登半島地震により、犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

令和6年1月1日、私は富山県の実家で過ごしていた際

に地震に遭遇しました。「気持ち悪い」と発したほど揺れが長く感じました。また、何度も繰り返される余震や警報音が鳴る度に感じた恐怖は今でも思い出されます。

私は、昨年まで石川県の中登地区で養護助教諭をしていたため、友だちやお世話になっている先生方、勤めていた学校の子どもたちは無事が大変心配になりました。連絡をとる中で、安否確認ができてホッとする一方、信じ難い知らせも届き困惑しました。

人との別れは必ず訪れますが、あまりにも突然で言葉も涙も出ませんでした。また、生きていく上で大切な人が増えると、失う悲しみも増えることに後ろ向きの気持ちにもなりました。そのようなとき、SUPER BEAVERさんの『儂くない』の歌を耳にして涙が止まりませんでした。「いつまでもないとわかっている、そのとき涙は溢れるだろう。でも僕は幸せが年々怖くなくなっている。」という歌詞に救われました。

失ったらどうしようと不安ばかりにとらわれるのではなく、今を大切に生きることができると幸せも怖くなくなるのではないかと、『大切な人たちと今を大切に生きよう』と少し前を向きました。そして、「笑いながら泣いて、泣いて、今更じゃなくて今からどう生きるって問い続けたいよ。」という歌詞が心に刺さりました。私の研究課題でもあるレジリエンス（困難な状況に直面しても傷つきから立ち直る力）が発揮される時だと思いました。予測困難な VUCA 時代、私は自分にどう生きるか問い続けていきます。

被災地にいる先生からの「こんなときこそ普通に生活するのが大事よね。考えすぎると気持ちが落ちちゃうからね。通学路の点検をして明日から学校始まるわ。」という連絡を目にしたとき、ハッとしました。命が助かったと同時に児童生徒および教職員の心のケアを行い、『いのち』を支えていくことが重要になると感じました。今回、様々な方からいただいたメッセージや耳にした歌に支えられたように、私は、『言葉』で伝えたり、『言葉にならない想い』を聴いたりして、自分を含めた一人ひとりの心に寄り添っていきます。

末筆ながら、救済や復興支援にご尽力されている方々に深く敬意を表します。今もお、不安な日々を過ごされている皆様の生活が一日でも早く平穏に復することをお祈り申し上げます。



第31回学術集会（ハイブリッド開催） のご報告とお礼

学会長 塚原加寿子（新潟青陵大学）

第31回学術集会は、「新しい時代に生きる子どもたちの可能性を広げる養護教諭の力」をメインテーマに掲げ、2023（令和5）年12月9日（土）、10日（日）、新潟青陵大学で開催しました。新潟県での開催は初めてのことであります。

2年前の開催決定当初から、新型コロナウイルス感染症への対応と参加しやすい環境に考慮し、対面とオンラインによるハイブリッド開催を計画していました。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類になってからは、対面開催の良さを参加者の皆様に感じていただけるよう、交流できる場を多く設けようと準備しました。会場準備とオンライン配信の準備を同時に行うこととなり、不安もありましたが、幸い大学の協力と実行委員の力で大きなトラブルもなく、会場参加者172名、オンライン参加者126名、合わせて298名の皆様にご参加いただきました。ご参加いただいた方々とご協力いただいた方々に、心から感謝いたします。

一日目の午前、学会開催前に理事会主催のプレコンGRESSが開催されました。5年ぶりのプレコンGRESSは、オンラインも含め、約90名の参加がありました。午後からは、学会長講演、特別講演、シンポジウムと進めました。シンポジウムでは、シンポジストとして、養護教諭、大学教員、新聞記者の3名の方にご登壇いただきました。それぞれの立場からのご提言の後、子どもの可能性を広げるために養護教諭はどのような力が必要かについてフロアとの協議が進められました。

二日目は、午前中に一般演題発表（口演19題、ポスター7題）、助成金研究発表（1題）を4会場で実施しました。各会場では、会場とオンライン参加者による活発な協議がなされました。午後からは、ワークショップを2会場、課題セッションを1会場設け、新しい時代の養護教諭の力に通じるテーマをもとに、グループワークや演習を行いました。各会場でオンライン参加者も交えて活発な意見交換が行われました。

昨年に引き続き、ハイブリッドで開催しましたので、事情があって現地には行けないが「学びたい」という人にとっては、「オンラインやオンデマンドはありがたい」等のアンケート記述があり、今後の学術集会の参考になる学会になったと思います。

最後になりましたが、本学術集会の開催にかかわっていただいた全ての皆様に深く感謝申し上げます。



第31回学術集会を振り返って

事務局長 佐藤 美幸(新潟青陵高等学校)

この度、2023年12月9日(土)、10日(日)に新潟青陵大学にて、日本養護教諭教育学会第31回学術集会を開催いたしました。昨年に続き、ハイブリッド方式での開催となり、298名(内、オンライン126名)の方にご参加いただきました。

当日は、冬の新潟とは思えないほどの晴天に恵まれ、参加者の熱気も満ち、活気のある学術集会を実施することができました。また、5年ぶりとなる情報交換会をホテルイタリア軒にて開催し、57名(来賓3名含む)の方にご参加いただき、新潟の地酒を楽しみながら有意義な時間を過ごすことができました。

本学術集会は、「新しい時代に生きる子どもたちの可能性を広げる養護教諭の力」をメインテーマに設定しました。学術集会に先立ち、午前中に行われたプレコンGRESには、会場・オンラインともに多くの方にご参加いただきました。参加者の学ぶ姿勢、熱い思いに、自分の身が引き締まる思いがしました。また、コロナ禍でお会いすることができなかった先生方と久しぶりに交流したり、新たな出逢いを得たりすることもできました。コロナ禍前は、学術集会に参加することで先生方から刺激をいただき、活力を得ていました。今はZoomでの参加に慣れましたが、実際にお会いし、温かい言葉をかけていただき、共に学び合うことの有難さを感じました。

ワークショップでは一部録画がされておらず、再録画をお願いすることとなり、ご迷惑をおかけいたしました。ほぼ予定どおりに執り行うことができ、講師の皆様、ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。

実行委員は、大学教員3名、現職養護教諭11名、指導主事1名の計15名で結成しました。私自身もこのような集会を開催することは初めてです。実行委員の半数が若手で、何をどうしたらいいのかわからないことが多く、みんなで考えながら準備を進めました。新型コロナウイルス感染症が5類へと移行はしましたが、活動当初は参集型で実行委員会を開催することに抵抗があり、Zoomでの開催となりました。しかし、学術集会が近づくにつれ、担当者同士の情報を密にする必要性を感じ、参集型での実行委員会を開きました。参集することで、本格的に団結でき、開催に向けて心をつつにできたと思います。このメンバーで学術集会を行えたことにとても感謝しています。また、実行委員だけではなく、当日は6名の養護教諭と31名の学生にお手伝いいただきました。さらに、ハイブリッド方式での開催となり、実行委員だけでは技術面に力量不足があり、オンライン支援スタッフとして新潟青陵大学の職員にも協力をしていただきました。打ち合わせにも参加していただき、オンデマンド配信にもご協力いただき、

とても感謝しています。

このような貴重な機会をいただき、実行委員は達成感でいっぱいです。

皆様から温かいご支援とご協力をいただき、無事に開催できたことに深く感謝申し上げます。

<学術集会アンケートの結果>

アンケートにご協力いただきありがとうございます。WEBと紙面を合わせて105人の方からご回答いただきました。貴重なご意見を抜粋してご報告いたします。

- 参加方法について
会場 60%、オンライン 29.5%
会場とオンライン両方 10.5%
- 会員の種別
会員 57.1%、会員外 42.9%
- 本学術集会を知った手段(複数回答)
知人の紹介 34人、学会ホームページ 27人
いつも参加している 23人、チラシ 22人
ハーモニー 19人 他
- 興味を持った内容(複数回答)
学会長基調講演 76人、シンポジウム 68人
特別講演 58人、ランチョンセミナー 52人
一般演題(講演発表) 48人、ワークショップ 47人
一般演題(ポスター発表) 18人
学会助成金研究発表 17人
- シンポジウムについて
 - 養護教諭がもっと自分たちのことを発信していく必要があると感じた。
 - 新聞記者の北島氏のように、きちんと取材をされた外部の方からの養護教諭に対する意見を聴くことができて良かった。
 - 養護教諭が今まで実践してきた積み重ねが子どもたちの可能性を広げていくことが分かった。様々な健康課題に直面する養護教諭にエールをもらったシンポジウムだった。
- シンポジウム以外について
 - ランチョンセミナーの頭痛の講演は、特別講演としてご講演いただきたい。
 - 特別講演の細尾さんのお話が心に響いた。ヤングケアラーと当事者としてのお話から、子どもが子どもらしくいられる時間、ほっとできる場所を提供できる養護教諭でありたいと思った。
 - 研究助成金発表はより多くの参加者の目に触れるべきだと考えるため、一般口演とは時間帯を別にしたほうが良い。
 - グラフィックレコーディングについて初めて知った。今後、校内ケース会議や情報共有の際に分かりやすく短時間で伝えられる手段を知ることができてよかった。
- その他
 - 会場だけでなく、オンライン参加やオンデマンド配信し

や特徴を明確に示すことの重要性を改めて確認することができました。

今回の第32回学術集会は、茨城県日立市での開催が予定されています。実行委員として企画運営に携われることを嬉しく、また身が引き締まる思いしております。コロナ禍によりハイブリッド研修が普及し、全国の皆様とつながりが持てることの良さを実感しています。その利点を生かしつつ、可能な方は是非会場に参集していただき、会場の雰囲気や直接やり取りする喜びを感じていただけたらと思います。つながりを肌で感じながら、活発な意見交流ができるよう、多くの方のご参加をお待ちしております。

2024年度「研究助成金研究」の選定報告

学術担当常任理事 鈴木 裕子

内規に則って選定し、理事会で審議して次の3件を決定しました。

- 子どもたちの Well-being を高める学校の福祉的役割—養護教諭の職務から見た現状と課題—

研究代表者：上原 美子(埼玉県立大学)

- 養護教諭が心の健康問題を抱える児童生徒に対する支援において連携・協働を促進させる要因の検討

研究代表者：岩崎 和子(北海道教育大学)

- 養護教諭養成担当教員の育成プログラムの開発

研究代表者：外山 恵子(愛知教育大学)

規定においては、採択件数は毎年度2件以内となっておりますが、この3件はいずれも選定基準に合致していること、昨年の助成金研究が該当なしであったため今回3件への支出が可能であること等から、この3件を選定し助成することとなりました。

2025年度の助成金研究は、本年9月10日が申請期限です。養護教諭の職種の発展を願い、養護教諭の資質向上・力量形成に向けた活動を行っている本会の趣旨に沿う研究を予定されている方は、是非、申請をご検討ください。詳細は学会HPに掲載しています。

第31回学術集会「投稿奨励研究」の選定報告

学術担当常任理事 鈴木 裕子

第31回学術集会(新潟)における一般演題発表の中から、次の研究を選定しました。

- メンタルヘルスの問題の早期発見・早期対応に健康相談を活用する試み—知的障害特別支援学校高等部の生徒を対象として—

研究代表者：與語ゆき枝(愛知教育大学大学院)

投稿奨励研究は、学会長・座長・理事からの推薦を受けた演題の中から選定して学会誌への投稿を勧めるものです。特典として、査読費用を免除し、学会誌掲載時には投

稿奨励研究であることを明記します。

次回学術集会においても投稿奨励研究の選定を予定しています。是非、多くのご発表を期待しています。

【助成金研究・投稿奨励研究に関する問い合わせ先】

鈴木裕子(学術担当常任理事)

メールアドレス：suzukiyu@kokushikan.ac.jp

第32回学術集会(茨城県日立市)へのお誘い—皆様の実践発表をお待ちしています—

学会長 松永 恵(茨城キリスト教大学)

第32回学術集会は茨城キリスト教大学で、本年12月7日(土)・8日(日)に開催します(WEB配信も予定しています)。テーマは「養護教諭の実践の省察から「知」の創造へ(仮)」です。

「知」は私たちの経験の中にあります。「これでよかったのだろうか」という思いが頭をよぎっても、まずは前を見て歩いていかなければならない日々をお過ごしのことと拝察いたします。ひとりの養護教諭が迷っていることは、他の養護教諭も迷っていることかもしれません。そして児童生徒の心身の健康の保持増進により発育・発達支援を行うという養護教諭ならではの迷いかもしれません。しばし立ち止まり、振り返り、問い直し、養護教諭の仕事の尊さを言葉にして共有し、更なる研究課題を考えていきたいと思い、計画を進めています。

口演発表、ポスター発表も計画しています。「なぜそうするのか」「なぜそうしたのか」を明確にして、日頃の実践を発表してみませんか。感染症による制限が解け、対面の発表が可能になりましたので、先日の学術集会では、私も久しぶりに口演発表をしました。質疑の時間的に確なご助言をいただいただけでなく、終わった後にも廊下ですれ違った方からお声をかけていただき、嬉しく、そして今後の方向が見えました。一人で考えては行き詰ってしまいます。是非、ご発表ください。

会場となる本学は駅前大学と呼ばれています。JR東京駅や品川駅から、常磐線の全席指定の特急ひたち／ときわに乗り2時間弱、「大甕(おおみか) 駅」に降りると門やクリスマスツリーが見えてきます。お車でいらっしゃる場合には、渋滞が少ない常磐高速「日立南」ICから10分です。広大な無料駐車場があります。

大学周辺にはホテルが少なく、2駅北の「日立駅」、3駅南の「勝田駅」(ひたちなか市)、4駅南の「水戸駅」の大きなホテルが便利です。おみやげは「大甕饅頭」か、BRTに乗りおさかなセンターで、観光は車で北茨城(美術館とあんこう鍋)や大子(袋田の滝と温泉)、常陸太田(竜神峡でバンジージャンプ)に足を延ばすか、JRで水戸線に乗り換え、笠間(陶芸)に立ち寄られても楽しめることでしょう。人気がない割には美味しく楽しく過ごせる茨城県をどうぞお楽しみください。

代議員及び役員候補者の選出に関する 選挙の実施について

選挙管理委員会

一般社団法人日本養護教諭教育学会 会員各位

告 示

一般社団法人日本養護教諭教育学会定款第 15 条「代議員の選出」により、代議員選挙について以下のように告示する。

(1) 期 日

2024 年 8 月 9 日(金) 締切り(当日消印有効)

(2) 有権者

「代議員及び役員候補者の選出に関する規程」第 3 条により、代議員選挙有権者は定款第 7 条に定める正会員で、選挙実施前年度の会費を納入した者とする。

有権者には、被選挙権を有する者の名簿を添えて 7 月中に投票用紙を送付する。

(3) 投票方法 所定の投票用紙を使用し、郵送により投票する。

2024 年 2 月 22 日

一般社団法人日本養護教諭教育学会 選挙管理委員会

委員長 西岡 かおり

委員 一期崎 直美、加納 亜紀、香田 由美

なお、一般社団法人日本養護教諭教育学会「代議員及び役員候補者の選出に関する規程」第 3 条により、代議員選挙有権者(選挙権を有する者)および代議員の有資格者(被選挙権者)、同規程第 4 条により会員の所属地区は以下のように定める。

1. 代議員選挙有権者は、2023 年度事業中である 2024 年 4 月 30 日現在、2022 年度年会費を納入した者とする。
2. 代議員の有資格者は、2020 年度～2022 年度の年会費を 2024 年度 4 月 30 日までに納入し、2023 年度以降の退会を表明していない引き続き 3 年以上正会員であった者とする。
3. 会員の所属地区は、原則として 2024 年 4 月 30 日現在における学会事務局登録の勤務先または在籍校の所在地とする。また、このいずれもなき者は自宅所在地とする。

「『養護学』の構築にむけたプロジェクト」 メンバーについて(報告)

2023 年度事業計画として「『養護学』の構築にむけたプロジェクト」を設置することになりました。委員数は 10 名程度とし、理事及び代議員が推薦者となって理事・代議員から 5 名(自己推薦あり)と正会員から 5 名を選出して就任

意向の確認を行った結果、以下の 8 名の方々がメンバーとなりました。なお、任期は 1 年で、継続事業になった場合の再任を妨げません。

- 理 事: 鎌田尚子、小林央美、徳山美智子、外山恵子
- 代議員: 籠谷 恵、北口和美、高田恵美子
- 正会員: 中村朋子

第 3 回 (2023 年度) 定時総会 (代議員総会) の議事について (報告)

理事長 後藤ひとみ

議事録は、学会誌第 27 巻第 2 号(2024 年 3 月末発刊予定)に掲載いたします。

1. 開催日時: 2023 年 12 月 8 日(金) 15:50～17:00
2. 開催場所: 新潟青陵大学 4331 会議室、対面と WEB 会議によるハイブリッド開催
3. 出席者: 理事長・理事・監事を含む評議員 28 名(WEB の 17 名含む)、委任状提出 18 名、欠席者 5 名
4. 審議事項: すべて原案どおり承認された。
 - 1) 2022 年度事業報告(案)
 - 2) 2022 年度決算報告(案)
 - 3) 2023 年度事業計画(案)
 - 4) 2023 年度予算(案)
 - 5) 理事の再任
 - 6) 監事の選任
 - 7) 選挙管理委員会委員の選出
5. 報告事項
 - 1) 規程等の改正
「委員会規程」の一部改正、「代議員及び役員候補者の選出に関する規程」の一部改正、日本養護教諭教育学会誌「投稿規程」の一部改正
 - 2) 2024 年度研究助成金研究の選定
 - 3) 「『養護学』構築にむけたプロジェクト」の設置について
 - 4) 各委員会の活動
総務委員会、学術委員会、編集委員会、広報委員会
 - 5) 第 32 回学術集会の開催について
 - 6) 第 33 回学術集会の開催地

理事会の議事について (報告)

総務担当常任理事 大川 尚子

ここには審議事項のみを掲載しました。各理事会の議事録は、学会誌第 27 巻第 2 号(2024 年 3 月末発刊予定)に掲載いたします。

< 2022 年度第 2 回理事会 >

1. 日 時: 2023 年 6 月 11 日(日) 17:00～19:20
2. 場 所: WEB システムにて開催
3. 出席者: 理事 15 名(欠席 2 名)、
監事 1 名(欠席 1 名)

<審議事項>

- 1) 既刊学会誌のHPへの掲載及び検索サイトへの掲載について
- 2) 会員等との情報共有や意見交流の場づくりについて
 - ①第31回学術集会におけるプレコンgressの開催
 - ②第31回学術集会におけるワークショップの開催
 - ③「養護教諭の倫理綱領」第13条を中心とした意見交流会の開催
- 3) 第31回学術集会のスケジュール等について
- 4) 寄贈された書籍の扱いについて

<2022年度第3回理事会>

1. 日 時:2023年9月24日(日) 13:00～17:00
2. 場 所:WEBシステムにて開催
3. 出席者:理事16名(欠席1名)、監事1名(欠席1名)

<審議事項>

- 1) 第32回学術集会(茨城)について
- 2) 第31回学術集会におけるプレコンgressの企画(案)について
- 3) 第31回学術集会における課題セッション(仮)の企画(案)について
- 4) 「養護教諭の倫理綱領」について
 - ①9/3(日)の意見交流会についての報告
 - ②学会としての今後の取り組み
 - ・日本学校保健学会第69回学術大会での自由集会(2023.11.12(日))の開催
- 5) 『養護学』学問体系の構築にむけたプロジェクトチーム(仮称)の設置について
- 6) 次期役員選挙の準備について
 - ①選挙管理委員会委員の推薦に関する関係規程の一部改正について
 - ②選挙管理委員会委員の推薦について
- 7) 第3回(2023年度)定時総会(代議員総会)の日程、議事について

<2022年度第4回理事会>

1. 日 時:2023年11月19日(日) 13:00～15:20
2. 場 所:WEBシステムにて開催
3. 出席者:理事16名(欠席1名)、監事2名

<審議事項>

- 1) 「投稿規程」の一部改正
- 2) 2024年度研究助成金研究の選定
- 3) 選挙管理委員会委員(中国・四国ブロックと九州ブロック)の推薦
- 4) 2022年度事業報告(案)について
- 5) 2022年度決算(案)について
- 6) 2023年度事業計画(案)について
- 7) 2023年度予算(案)について
- 8) 2022年度の委員会活動報告(案)について
- 9) 第3回(2023年度)定時総会(代議員総会)関係
- 10) プレコンgressの事後アンケート

11) 課題セッションの事後アンケート

12) 『養護学』構築にむけたプロジェクトの設置について

事務局からのお知らせ

総務担当理事・事務局長 加藤 晃子

会員の皆様には、平素より学会運営にご理解とご協力を賜り深く感謝いたしております。

●2023年度年会費の納入をお願いいたします。

2023年度の会計年度は9月30日までです。すでに会員の皆様には年会費振込票をお送りしていますので、早急に納入をお願いいたします。

●今年度は代議員選挙があります。

選挙を行うにあたり、2022年度年会費が未納の方は選挙権がございません。また、被選挙権は2020年度以降の会費を納めている方が有しますので、学会HPのマイページにて納入状況をご確認ください。

●メール登録はお済みでしょうか。

オンライン研修会等の開催連絡をはじめ、タイムリーな情報提供のためにメールアドレスのご登録をお願いいたします。



未登録の方は、至急、右のQRコードまたは学会HPからご入力ください。

●『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第三版>』の購入が簡単になりました。

右のQRコードまたは学会HPのフォームをご利用ください。



●既刊学会誌を学会HPに掲載しました。

第25巻第2号までの巻頭言、特集、研究論文、学術集会企画、要望書等を学会HPにアップしました。第1巻第1号は創刊号として全文掲載しています。

まもなく第27巻第2号が発刊されますので、その後、第26巻第1号・第2号を公表いたします。

編集後記

今回は、能登半島地震の被災地に近い3名の会員の方に現在の状況や想いを寄せていただきました。私は過去に宮城県で養護教諭をしており、東日本大震災の1か月を過ぎたころから、養護教諭の仕事が辛くなり、3か月が経った頃には、辞めようと思った経験があります。その精神状態から回復したのは、東京都から養護教諭の派遣があったからです。能登半島地震から2か月、被災された方々が一息つきますように、お力になればと思っています。是非、声を聞かせてください。

(山本訓子)